

第2回雲南市上下水道料金等審議会 議事録

1. 日時：令和8年3月30日（月） 午後1時30分～午後3時00分

2. 会場：雲南市上下水道局 2階会議室

3. 出席者

（審議会委員）

福間久仁子 委員、広野充明 委員、鐘撞光章 委員、松村享江 委員、田原仁美 委員、徳島未美 委員、医療法人陶朋会 平成記念病院 事務局長 永井大介 委員、パナソニックソーラーシステム製造株式会社 事業管理部 統括主幹 小村亮二 委員、片寄邦良 委員、廣田俊之 委員

・・・(委員 10 名)

（事務局）

西村健一 副市長、安部哲男 上下水道局長、飯島 昭 次長兼下水道課長、村重悦子 総務課長、小田川謙一 工務課長、永井慎也 営業課長、山根史朗 統括主幹

・・・(事務局 6 名)

4. 審議日程

(1) 開会

(2) 副市長あいさつ

(3) 会長あいさつ

(4) 審議

○下水道使用料の検討について

(5) 次回審議会の開催について

(6) 閉会

(7) 現地視察

[次第]

1. 開会（進行：飯島次長）

2. 副市長あいさつ

西村健一 雲南市副市長

3. 会長あいさつ

広野充明 審議会 会長

雲南市上下水道料金等審議会条例第7条第2項に基づき、委員の半数以上が出席しており会議が成立していることを報告

----- 以後、審議会条例第7条に基づき、会長が議長となる -----

4. 審議

(1) 下水道使用料について

… 資料 NO. 1 (説明：村重課長)

事務局より説明した後、委員からの質疑を行った。

【質疑】

(片寄委員)

今回下水道使用料の改定を見送るということだが、先ほどの説明において令和 13 年度では利益が約 320 万円、令和 14 年度からは利益がマイナス約 1,600 万円とマイナスがどんどん増えてきているが、次回下水道使用料を改定するとき改定率がかなり大きくなると思うが大丈夫か。

(村重課長)

この点については、前回広野会長からも意見をいただいております、前回下水道使用料の改定したときには 20% 増というかなり大きな改定をしている。

前回の改定は 20 年ぶりでかなり大きい改定率になったが、今後はこまめに見直しを行っていくことで下水道使用料の大きな改定率にならないように改定をしていく計画である。

例えば令和 14 年度で経常損益 1,600 万円の赤字になっているが、これを黒字化できれば、下水道使用料の改定率も抑えられていけるのではないかと考えている。

(福間副会長)

下水道の管やマンホールは定期的に点検を行っているのか。

(飯島次長)

下水道のマンホールについては、市内の連坦地は公共下水道に接続しており、下水道法で 5 年に 1 度、腐食性の高い箇所を点検を行うよう義務付けられているため、それに基づいて点検を行っている。

また、農業集落排水については公共下水道のような義務等はないが、今年度から腐食性の高い箇所についてはピックアップをして点検を始めたところである。

(永井委員)

先ほど説明において、財政計画の支出に毎年 9 億円を超える減価償却費が計上されているが、単年度で令和 14 年度以降赤字が出るということは、この計画上赤字は出るがキャッシュベースでは黒字が続いていくということでしょうか。

(村重課長)

会計全体のキャッシュについては、この表の49行目に単年度資金収支ということで数字を記載している。

前回資料の資料NO.2で財政計画を示しているが、そこには収益的収支および資本的収支、それぞれの収入、支出が掲載しており、全体の資金収支が49行目に掲載してある。

また、減価償却費が収益的収支では9億円あるが、現金が出ていかない支出であるため現金が残るということになる。

それと相対して、収入の9行目、長期前受金戻入は逆に現金の収入を伴わない収益であり、この差し引きが単純に収益的収支の中で現金が確実に残る部分になる。そして、減価償却費部分も現金が残るが長期前受金戻入部分も現金はない。

単純に見て約6億円の現金が生まれているが、資本的収支において、収益的収入、支出で残った現金を資本的支出、例えば企業債の償還金に充てたり、補助金などが様々な建設改良費に充てられるため、全体を合わせた資金収支が49行目の単年度資金収支になる。

令和9年度は資金収支黒字にはなっているが、令和12、13年度で単年度の資金収支は赤字になっている。

それ以降ずっと赤字になっているので、令和8、9年度見ると約5億9,500万円のキャッシュがあるが、令和17年度になると約1億円減って約4億8,000万円になるような資金の流れになっている。

(永井委員)

留保資金は、下水道事業会計全部のいわゆる資金の余剰、現金の保有高ということであるとすれば、令和17年度には留保資金が約4億8,000万円残るため、今現在では下水道使用料を据え置くという考えでよろしいか。

また、もしそうであるとすれば今後留保資金の残高をどれぐらいを最低維持していかなければいけないのか、それによって下水道使用料をどうするのかを検討していかなければならないのか。

(村重課長)

現在約5億9,000万円あるキャッシュが令和13年度で約5億6,000万円と若干減ってはいるが5億円キャッシュが残っており、今回下水道使用料の改定をしない理由の1つである。

また、留保資金をどのぐらい持つべきかについては、それぞれ自治体の事情があり、雲南市のようにまだ下水道会計そのものの歴史が浅い、それから企業会計として独立した会計になったのが、令和2年度から一部法適化し、令和6年度から完全に一般会計とは切り離して企業会計として行っている。

ようやく令和2年度から企業会計になって、少しずつキャッシュを貯めて現在の状態に

なっており、水道事業会計と比べるとまだまだキャッシュは少ないとは言いつつも、年間の下水道使用料収入は現在約5億円である。

一般的に水道料金、下水道使用料は1年分ぐらいは最低限キャッシュ持って、本市としては会計を回していきたい。

(小村委員)

動力、修繕費、その他で、例えば動力費だと年間約100万円増えている。修繕費だと約50万円、その他は約70万円年々上がっているが、右肩上がりになっている考え方を教えていただきたい。

(村重課長)

近年のその物価の上昇が全てなかなか見込めてはないと思うが、少なくとも年に1%ずつは上昇していくような計算にしている。

(広野会長)

下水道については前回説明があったが、施設の統廃合をこれから行っていくと聞いている。これは公共施設も同じだが、施設数が多ければ多いほど維持管理経費が掛かるというのは当たり前の話である。

それが、旧町時代の施設を何十年維持してきたが、このところで統廃合ができると理解している。

今後も努めていただき、極力施設の統廃合を進めながら、維持管理経費を削減していただけたい。

施設の老朽化に対する問題と統廃合については積極的な取り組みをしていただき経費の削減に努めていただきたい。

雲南市そのものが財政状況が決して良いという状況にはないので、そのような中で安定した繰り出しも必要である。

下水道事業ばかりではないが、そういう生活に密着した施設、事業に対しての繰り出しがきちんとされるような経営安定を図っていただくことも非常に重要ことになると思う。

下水道使用料の問題についても、相当依存することではないかなと思っているので、企業努力をよろしく願いたい。

----- 審議終了 -----

5. 次回審議会の開催について

日時：令和8年5月7日(木) 午後1時30分～

会場：雲南市上下水道局 2階会議室

6. 閉会

安部局長あいさつ

7. 現地視察

有限会社奥出雲葡萄園 合併浄化槽